鳥取県県南地域

土地分類基本調査

坂根・大屋市場

5万分の1

国土調査

鳥取県

1979

ま　え　が　き

国土の秩序ある利用を図ることは，人口がちょう密で土地資源が限られている我が国において緊急かつ重要な課題であるが，その基本的理念は，国土が国民生活及び生産の共通の基盤であることを念頭に置き，公共の福祉を優先させ，自然環境を損わず，地域の自然的，社会的及び文化的特性を配意した均衡ある発展が図られるものでなければならない。

鳥取県は，山陰の中央部に位置し，その地理的，気象的条件から土地利用の発展が遅れていたが，それだけに未利用部分は多く利用発展の可能性をもっている。この利用発展を具体化するため高速交通体系及び各種産業開発構想等が計画として策定されている。

幸い国において土地利用に関する具体的な公的プロジェクトのある地域の条件を明らかにするために，国土調査法に基づく都道府県土地分類基本調査が設けられているが，これは土地の利用や規制に関する計画の基礎的な資料を提供するものとなっている。本県としてもこのような情勢に即応して，昭和48～53年度に「赤碕」「大山」「青谷」「倉吉」「鳥取北部」「鳥取南部」「浜坂」「若桜」「村岡」「根雨」「湯本」「奥津」「智頭」（建設省国土地理院発行縮尺５万分の１地形図）を実施したのに引き続き鳥取県県南地域の土地分類基本調査として「坂根」「大屋市場」（同図）の鳥取県の区域を国土調査の指定を受け都道府県土地分類基本調査実施大綱及び鳥取県県南地域都道府県土地分類基本調査作業規程に基づき，地形分類図，表層地質図，土じょう図，傾斜区分図，水系谷密度図，開発規制図，土地利用現況図の７図葉と簿冊を作成した。

なお，印刷に当っては両図幅を接合印刷とした。

昭和55年度には「横田」，「多里」「上石見」について実施し，全県下の図幅を完了する予定である。

目　次

まえがき

総　論

Ⅰ 位置、行政区画 …… 1

Ⅱ 人　　口 …… 2

Ⅲ 地域の特性 …… 4

Ⅳ 開発の方向と主な基本計画 …… 8

各　論

Ⅰ 地形分類図 …… 9

Ⅱ 表層地質図 …… 11

Ⅲ 土じょう図 …… 15

Ⅳ 水系谷密度図 …… 21

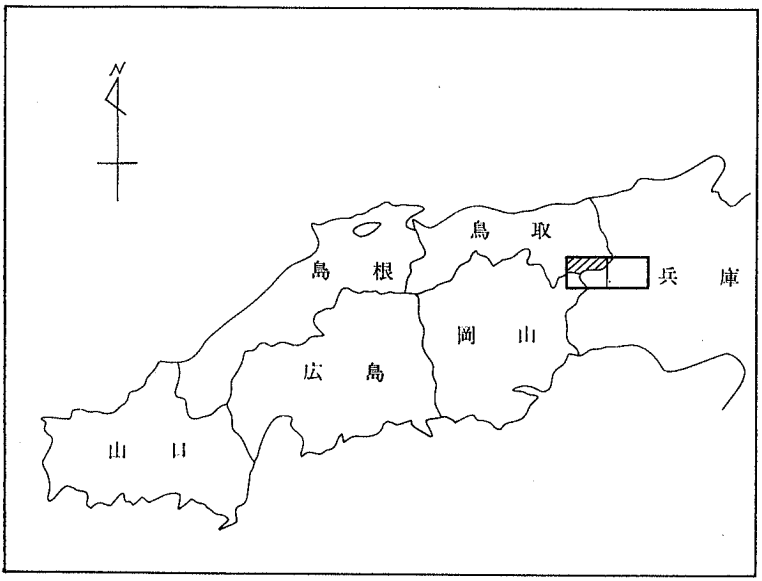
Ⅴ 傾斜区分図 …… 22

Ⅵ 開発規制図 …… 22

Ⅶ 土地利用現況図 …… 26

あとがき

位　置　図



総　　論

I　位置・行政区画

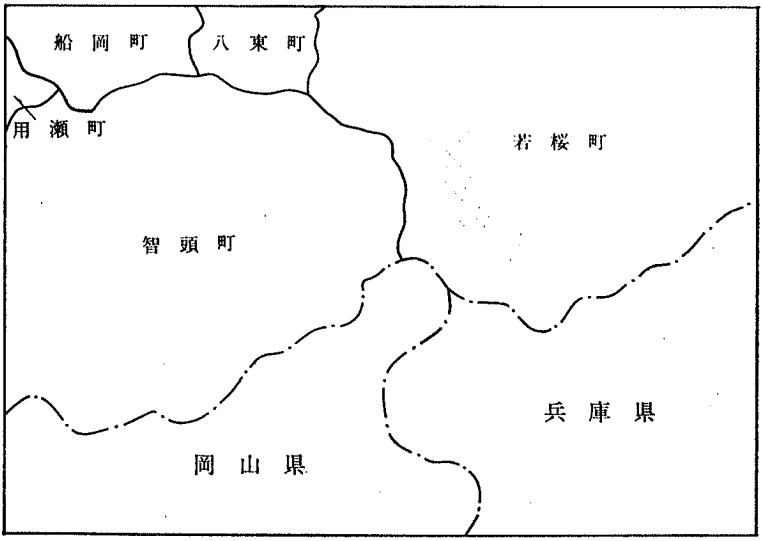
1 位　　置

この図葉は，鳥取県の東南端に位置し，経緯度は東経 134°15′から 134°31′まで，北緯35°10′から35°20′までの範囲である。

2 行 政 区 画

この図の行政区画は，智頭町，若桜町が大部分の面積を占め，図の西北部に小面積で八東町，船岡町，用瀬町の一部分がみられる。したがって，図葉内には八頭郡の5つの町が含まれている。また図の南方には岡山県，東南方には兵庫県が位置している。

第1図　行 政 区 画



Ⅱ 人　　口

本図葉の地勢をみると，そのほとんど大部分の面積は山地によって占められ，平地はごく僅かの面積にすぎない。したがって可住地面積は限定されるから人口総数は少なく人口密度も小さい。

世帯数，人口および人口移動の推移は第１表のようで，各町の人口総数はいずれも減少傾向にある。しかし世帯数についてみるとあまり減少しておらず，横ばいの傾向をもっている。

人口移動状況の推移をみると，昭和40年代の後半までは社会減が各町とも目立つのであるが，昭和50年代に入ると人口の社会減が小さくなり，人口の流出現象がやや鎮静化してきたことを示している。

人口の流出は若年男子の単身離村の形態で，そのため，若年男子の人口が少なく，人口構成において女性の比率が高く，また人口の老令化が顕著である。

第 1 表　　世帯数，人口，人口移動状況　　県統計課

区分		年次	昭和45年	昭和46年	昭和47年	昭和48年	昭和49年	昭和50年	昭和51年	昭和52年	昭和53年
八頭郡	船岡町	世帯数	1,136	1,149	1,150	1,156	1,156	1,138	1,138	1,137	1,127
		人口	5,291	5,198	5,120	5,063	5,034	4,938	4,925	4,914	4,904
		移動状況 総数		△ 93	△ 78	△ 57	△ 29	△ 96	△ 13	△ 11	△ 11
		移動状況 自然増減		△ 12	△ 12	9	22	16	11	10	44
		移動状況 社会増減		△ 81	△ 66	△ 66	△ 51	△ 112	△ 24	△ 21	△ 55
	八東町	世帯数	1,536	1,497	1,497	1,495	1,499	1,481	1,479	1,481	1,486
		人口	7,069	6,824	6,754	6,702	6,690	6,572	6,569	6,546	6,550
		移動状況 総数		△ 245	△ 70	△ 52	△ 12	△ 118	△ 3	△ 23	4
		移動状況 自然増減		7	30	46	23	33	32	19	53
		移動状況 社会増減		△ 252	△ 100	△ 98	△ 35	△ 151	△ 35	△ 42	△ 49
	若桜町	世帯数	1,797	1,782	1,779	1,768	1,731	1,775	1,769	1,760	1,764
		人口	7,568	7,347	7,253	7,146	7,068	6,989	6,909	6,868	6,819
		移動状況 総数		△ 221	△ 94	△ 107	△ 78	△ 79	△ 80	△ 41	△ 49
		移動状況 自然増減		18	5	31	1	△ 26	11	19	14
		移動状況 社会増減		△ 239	△ 99	△ 138	△ 79	△ 53	△ 91	△ 60	△ 63
	用瀬町	世帯数	1,186	1,221	1,213	1,206	1,204	1,199	1,204	1,211	1,227
		人口	5,054	5,189	5,068	5,024	4,988	4,952	4,903	4,908	4,920
		移動状況 総数		135	△ 121	△ 44	△ 36	△ 36	△ 49	5	12
		移動状況 自然増減		△ 12	5	20	6	22	14	27	24
		移動状況 社会増減		147	△ 126	△ 64	△ 42	△ 58	△ 63	△ 22	△ 12
	智頭町	世帯数	2,957	2,945	2,943	2,954	2,965	2,964	2,968	2,970	2,972
		人口	12,597	12,208	12,018	11,906	11,796	11,651	11,660	11,641	11,532
		移動状況 総数		△ 389	△ 190	△ 112	△ 110	△ 145	9	△ 19	△ 109
		移動状況 自然増減		42	19	44	39	24	31	31	14
		移動状況 社会増減		△ 431	△ 209	△ 156	△ 149	△ 169	△ 22	△ 50	△ 123

Ⅲ 地 域 の 特 性

1 自然的特性

本地域は中国山地の東部に位置し，兵庫県，岡山県との県境部には三室山（1358m）以下の山地が続き，智頭町と若桜町の境界部にも東山（1388m）などの高い山地がみられ，その他沖ノ山（1318.8m），鳴滝山（1287.1m），くらます（1282.1m）などの高い山が分布し，きわめて山地が多く平地が少ない。山地の斜面形は直線的で，山腹斜面の勾配は40°内外の急峻なものが目立ち，いわゆる壮年山地を形成している。

地質は，花崗岩や古生層の変成岩と新生代の火山岩が主なもので，花崗岩は東山・沖ノ山地域に広く分布し，火山岩は図葉東北部の大段，高山地域に広い分布をしている。

気候は湿潤・冷涼で年降水量は2000～2200㎜に達し，山地の斜面特性，地質特性などとともに，本地域の林業の自然的基礎を形成している。

2 歴史的特性

本地域は因幡国の南端をなし，戸倉峠・志戸坂峠によって山陽部と連絡しているので，古代から山陰と京阪神方面あるいは山陽とを結ぶ重要な交通路として，この地域が利用されてきたと考えられる。また山間の小集落は隔絶性が大で，落折のように平家の姓が多く，平家村とされるものもある。木地師の活躍した木地師集落も落折の他吉川などがあげられる。

若桜町，智頭町は古代から若桜，土師，日部，三田の郷として和名抄にみえているから，1000年以上前から開けていたことが知られる。若桜町は西暦1200年頃矢部氏によって鬼ケ城が築かれ，その城下町として栄え，また宿場町，市場町としての役割りを果してきた。智頭町智頭も日本後記に「道俣駅」とあり，交通の要地としての機能を古代から果していたことが明らかである。

3 社会的，経済的特性

(1) 農　業

耕地面積は，第2表でわかるように畑地や樹園地に比べて水田の面積が相対的に大

第2表　　耕地・山林面積一覧　　(単位ha)

	耕地総面積	田	畑	樹園地	宅地	山林
船岡町	537	391	73	73	57	1626
八東町	683	471	69	142	74	1362
若桜町	383	278	69	37	57	2683
用瀬町	367	247	37	83	46	1562
智頭町	638	534	72	31	109	6903

きい。しかし八東町では樹園地の面積がやや多くなっていて，なし・かきなどを中心とする樹園の面積がかなり広いことがわかる。またタバコ，いちご，野菜栽培なども導入されつつある。

(2) 林　業

本図幅内では人工林化がかなりすすみ，若桜林業，智頭林業として知られる林業地域が広く分布している。山林面積は，第2表にみるように智頭町がずばぬけて広大で，若桜町がこれに次いでいる。本地域の林業の歴史はかなり古く1600年代に始まったと云われ，近世末に木材の商品化がすすむと共に人工林化が進行し，スギを中心とする良質の木材生産地域となった。しかし現在は外材の輸入増大や労賃の高騰など問題もあり，また林道が未整備のため搬出困難あるいは輸送費が高いなどの条件もあり問題も多い。

(3) 観　光

本地域には氷ノ山後山那岐山国定公園がふくまれており，山岳景観，森林景観，植生，動物などすぐれた自然が残されている。また芦津渓谷，三滝などのように河川景観としてすぐれたものも多い。

また若桜町岩屋堂には鎌倉時代の古建築として価値のある不動院岩屋堂があり，吉川には古建築として価値のある民家（三百田邸）など文化財として貴重なものがあ

る。

(4) 本図楽に係る町村の就業構造と産業別事業所数・販売・出荷額を記すと第3表，第4表のとおりである。

第3表　就業構造　昭和50年国勢調査

区分＼市町村名	八頭郡				
	船岡町	八東町	若桜町	用瀬町	智頭町
農業	947	1,444	774	629	1,263
林業・狩猟業	39	51	181	65	453
漁業・水産養殖業	—	2	1	1	1
鉱業	6	1	1	16	20
建設業	338	346	339	209	678
製造業	564	683	1,111	778	1,874
卸売業・小売業	331	391	560	362	765
金融・保険業	31	37	47	45	81
不動産業	6	4	3	5	5
運輸・通信業	110	160	223	155	244
電気・ガス・水道業	6	13	16	17	33
サービス業	358	421	504	371	772
公務	90	124	126	89	156
その他	2	4	19	15	2

第 4 表　　産業別事業所数・販売・出荷額等

区分	市町村名	八頭郡				
		船岡町	八東町	若桜町	用瀬町	智頭町
工業	事業所数	21	17	39	29	90
	従業者数	286	428	707	701	1,526
	製造品出荷額等（100万円）	1,760	2,353	3,881	5,921	8,640
商業	商店数	79	86	154	94	230
	年間販売額（100万円）	925	1,587	1,893	1,465	3,757
農業	農家数	773	1,031	803	636	1,432
	（専業）	44	146	26	28	29
	（兼業）	729	885	777	608	1,403
	生産農業所得	579	1,062	367	384	517
	耕地面積総数（ha）	568	793	443	409	732
	田	445	531	309	281	618
	畑	123	262	134	128	114

昭和53年工業統計調査

昭和51年商業統計調査

昭和52～53年農林水産統計

Ⅳ　開発の方向と主な基本計画

1　農　　業

各町とも水田や畑地の基盤整備事業をすすめ農業の近代化，機械化をすすめている。本地域は鳥取市を中心とする鳥取県東部広域市町村圏に包含される。したがって消費市場・流通基地としての鳥取との関連を考えつつ農業を発展させるべきである。農業の主体は水田経営から多角化の方向をもとめ，なし・かき・くりなどの果樹，花木，しいたけ，薬草，茶などの農業生産の拡大をはかる。また農業集落のうち過疎化した小集落については，集落の統合再編成をすすめる。

2　林　　業

本地域は県内有数の林業地域であり，林産物の主産地であるので，林業の一層の発展をはかる。そのため林道網の整備，入会林野の近代化をはかり，機械化，協業化などによる林業経営の安定化につとめる必要がある。

3　工　　業

山村振興のために，たとえば若桜町吉川に縫製，電気部品などの工場が導入されているが，今後も一般機械，金属，電気機械など内陸型工業の導入をはかる。また林業などの特産品と関連させた地場産業の振興をはかる。

4　観光開発

本地域には，山岳，河川，植生などすぐれた観光資源がある。たとえば氷ノ山を中心とする雄大なスロープ，湯原地区の温泉開発，沖ノ山，芦津渓などいくつかの拠点があり，山岳スポーツリクリエーション公園としての開発や山岳観光の中心としての開発をはかる。また観光ルート施設の整備をはかる。

5　交通体系

本地域は山陰と京阪神あるいは山陽とを連絡するルートにあたっているので，交通体系の整備はとりわけ重要である。とくに中国縦貫自動車道の完成にあわせて横断道の整備が必要である。また在来の自動車道に関しては国道29号の戸倉峠，主要地方道2号の志登坂峠は交通量が多いけれども勾配が急で，トンネル幅もせまく改修が必要であり，現在新隧道の工事がすすめられている。また智頭から佐用をへて山陽本線上郡に至る国鉄智頭線の建設がすすめられている。　　（鳥取大学　文部教官　豊島　吉則）

各　　論

I 地 形 分 類 図

1 地形概説

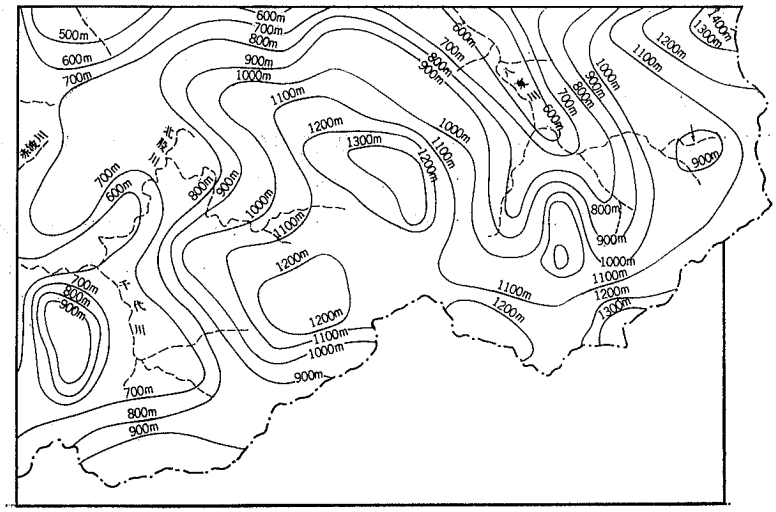
第2図の接峰面は，5万分の1地形図について方眼に細分し，その方眼内の最高点をデータとして画いたものである。これによると本図葉の最高点は海抜1400mの北東部県境地区で氷ノ山の南部にあたる。また図葉の中央部に海抜1300mの閉曲線があるが，これは東山附近の山地である。またその西南に海抜1200mの閉曲線がみられるが，これは沖ノ山にあたる。図葉西部の海抜 900mの閉曲線は積見山である。接峰面図の等高線間隔を検討してみると，海抜 700m内外および海抜 900～1100m内外の部分が広く，平坦面が存在するらしいことが推定される。

海抜 700m内外の面は,北股川と赤波川の間の山地によく発達している。また海抜 900～1100m内外の面は図葉東部大ボウシ附近と東山，沖ノ山附近に良好に発達している。

河川流路と接峰面の関係は本図葉ではあまり明瞭ではない。しかし八東川は北西方向に流れていて必従河川として無理がない。他方千代川上流部，北股川，横瀬川などは接峰面の示す原面と調和的でなく，無従的である。

県境部の山地高度は，東部が高く西部が低く，1300mから 900mに漸移している。

第 2 図　　接 峰 面 図



2 地形細説

2－1 山　地

Ｉａの船岡山地は図葉北西部に分布する小起伏山地である。Ｉｂの海上山山地は海抜786ｍの海上山や758.8ｍの三角点を中心とする中起伏山地である。Ｉｃの穂見山山地はＩｂの山地と同様の中起伏山地であるが，その西側に智頭盆地を構成する小起伏山地が接している。

ここでは小起伏山地と中起伏山地の境界線は，南北にわたってきわめて明確である。

Ｉｅの東山・沖ノ山山地は花こう岩で構成された山地で，山頂部に緩斜面が形成されている。この山地の周囲には芦津渓谷で代表されるような峡谷や急斜面が多い。しかし，芦津渓谷上流部にかかる三滝より上流部においては河川勾配は著しく緩やかとなり，谷底部に広い谷底平野がみられ，それを取り巻く山地も小起伏の老年山地的な従順山地となり，土じょう層が厚く発達する。

Ｉｆ，Ｉｇ，Ｉｈの山地は大きくみれば一つの山地として扱うことができる。これらの山地は山腹斜面がかなり急な壮年山地で，谷は深いＶ字谷を形成し，谷底平野の幅はせまい。谷節には２～３の遷急点があってその上流側に小平坦面があり，吉川のような山村が立地する場合もある。これらの山地の頂部には小面積の山頂平坦面がある。高倉や三室山附近にその実例がみられる。

Ｉｉは氷ノ山山地であって，これは大起伏山地である。その頂部には大段の広い平坦面があり，これは氷ノ山火山斜面の一部を構成しているものと考えられる。

2－2 台地・低地

本図葉の台地は千代川，八東川に沿って小面積で断片的にみられる段丘が僅かに散見されるにすぎない。低地は千代川に沿った谷底平野と八東川に沿った谷底平野がそれでいずれも細長い沖積地からなり，集落や耕地の大部分はこの地形の上に立地している。

（鳥取大学　文部教官　豊島　吉則）

Ⅱ 表 層 地 質 図

1 表層地質概説

鳥取県の最南東端に位置する本図葉の範囲は千代川本流と八東川の源流域で，大起伏の急峻な山地が連なるが，地質構造は比較的単純である。分布する岩石および堆積物は，未固結堆積物，半固結堆積物，固結堆積物，火山性岩石（固結），深成岩および変成岩である。このうち，変成岩と深成岩がもっとも広く分布しており，河谷に沿って未固結堆積物が，図葉の北縁にわずかに固結堆積物が分布している。

変成岩類はほぼ西北西—東南東の一般走向で図葉を東西に帯状に分布し，褶曲をくり返している。

深成岩類は中生代末に迸入した大岩体が沖山を中心に円心状に発達しており，一部には新第三紀の深成岩が小範囲に分布している。深成岩類と密接な関係をもって，中生代火山岩類が分布している。

第 5 表　　表 層 地 質 総 括 表

地質時代			未固結堆積物	半固結堆積物	固結堆積物	火山性岩石（固結）	深成岩	変成岩
新生代	第四紀 Q	完新世 A	れき・砂(g) 砕屑物(cl)					
		更新世 D		砂れき(Sg)		安山岩質岩石(Qu)		
	新第三紀 Tn	鮮新世				火砕岩(Tp)		
		中新世			泥岩・砂岩(Tf) れき岩・砂岩(Tm)		閃緑岩質岩石(D_2)	
中生代 M						流文岩質岩石(Mv)	花崗岩質岩石(Gr_5) 花崗岩質岩石(Gr_4) 花崗岩質岩石(Gr_3) 花崗岩質岩石(Gr_2) 花崗岩質岩石(Gr_1) 閃緑岩質岩石(D_1)	
古生代 P								緑色片岩(Gs) 珪質片岩(So) 黒色片岩(Bs)

新生代の火山性岩石（固結）は主に図葉の北東部の兵庫県との県境に近く発達している。

固結堆積物は新第三紀の鳥取層群に属するものである。

未固結～半固結堆積物は小規模に発達するのみで，段丘，現河床および崖錐として分布するものである。

図葉内には南北性の断層が卓越している。

2 表層地質細説

(1) 未固結堆積物

れき・砂（g）

現河床堆積物で，千代川，八東川などの谷底平地に分布する。れきがち堆積物で流域内に発達する岩石の亜角れき～亜円れきを主とする。

砕屑物（cl）

崖錐や扇状地堆積物，河川の小支谷などに発達する角れきを主とする未固結堆積物である。戸倉峠，右手峠，大通峠などの峠付近や吉川，東山南西方の谷沿いのように花崗岩質の岩石分布域にもよくみられる。

(2) 半固結堆積物

砂れき（Sg）

図葉内ではごく小範囲しか分布しない。段丘堆積物で千代川沿いには大内付近，八東川沿いでは中原，寺前に発達している。比高は約5m，固結度などからみて洪積世の堆積物と考えられるが火山灰が被覆するかどうかは不明である。

(3) 固結堆積物

泥岩・砂岩（Tf）

図葉の北縁で火山性岩石の下位にわずかに見られるが，「若桜，村岡」図葉内で広く分布する鳥取層群に相当するもので普合寺泥岩層と呼ばれているものである。中新世中期を示す化石が春米川の上流で報告されている。

れき岩・砂岩（Tm）

上述の泥岩・砂岩（Tf）の下位に発達するれき岩・砂岩で，分布はごく小範囲である。新第三紀の鳥取層群円通寺砂岩，れき岩層に相当するものである。れきは主に深成岩，中生代火山岩類からなる。

(4) 火山性岩石（固結）

安山岩質岩石（Qv）

本岩は更新世の扇ノ山安山岩類を一括したもので溶岩と火山砕屑物などを含んでいる。図葉北東部の県境部分に小範囲に分布するのみである。

火砕岩（Tp）

図葉の北東部の兵庫県との県境域に分布する火砕岩と溶岩を一括した。新生代新第三紀鮮新世の火山性岩石が照来層群と呼ばれているが，本岩はそれに相当し，鳥取県下で鳥越火砕岩質と呼称するものである。固結度はあまりよくないものもある。

流紋岩質岩石・安山岩質岩石（Mv）

主として流紋岩質の火山岩であるが，一部に安山岩質岩石も含めた後期中生代火山岩類で兵庫県で矢田川層群と呼ばれるものに相当する。深成岩類と相伴って分布し，中原，加地川，ハサリ川付近によく発達している。岩片，岩体ともに堅硬である。

(5) 深　成　岩

閃緑岩（D）

図葉の東よりの高山付近で南北にのびる閃緑岩の小岩体がある。新生代の鳥取層群に貫入しているので新第三紀の迸入岩であることがわかる。暗黒微密な岩石であるが，岩相は可成り変化する。模式地の名をとって淵見閃緑岩と呼ばれている。

花崗岩質岩石5（Gr_5）

本図葉内に分布する中生代深成岩中で最後の迸入岩である。岩質は斑状の角閃石黒雲母アダメロ岩で，中原から右手峠にかけて分布し，中原花崗岩と呼ばれている。

花崗岩質岩石4（Gr_4）

後期中生代迸入岩類のうち第二期の迸入岩で用瀬附近，沖ノ山周辺，八河谷などに分布するので用瀬花崗岩と呼ばれている。岩質は中粒～細粒の黒雲母アダメロ岩である。

花崗岩質岩石3（Gr_3）

東山付近に広く分布するが，智頭町智頭，毛谷などに模式的に発達するので智頭花崗岩と呼ばれている。後期中生代迸入岩の第2期迸入岩とよばれているが岩質は中粗角閃石黒雲母花崗閃緑岩である。なお，柿谷花崗岩と呼ばれるものも本岩に一括した。

花崗岩質岩石2（Gr_2）

図葉内に小範に分布する黒雲母花崗閃緑岩～黒雲母花崗岩は下古屋花崗岩と呼ばれるもので，後期中生代第1期迸入岩のうち，最後のものと考えられる。

花崗岩質岩石1（Gr_1）

図葉内の沖の山，中原付近に分布する文象斑岩類を花崗岩質岩石1（Gr_2）とした。鉛山文象斑岩と呼ばれているものに相当する第1期迸入岩である。

閃緑岩質岩石1（D_1）

図葉内の八河谷・堂本付近で智頭花崗岩を縁どるように閃緑岩～閃緑玢岩が分布する。この岩石が閃緑岩質岩石1（D_1）としてまとめたもので，小分布ではあるが中生代後期の迸入岩類のなかでは最古のものである。

(6) 変　成　岩

緑色片岩（Gs）

緑色片岩（Gs）は若桜町，糸白見谷，三倉谷に一般走向N70°W，傾斜N40°で東西に分布する。緑色千枚岩・緑色片岩・変成玄武岩熔岩などを一括している。三郡変成岩類に属するものである。

珪質片岩（So）

三郡変成岩類に属する本岩はチャートを源岩とする弱変成岩で佐崎，柿原，岩屋堂付近に広く分布する。全体に北にゆるく傾斜している。泥質岩と珪質岩が互層する部分もある。

黒色片岩（Bs）

図葉内の三郡変成岩類で最も広範囲に分布する黒色千枚岩である。図葉西域の船岡町，用瀬町，智頭町に発達している。一般走向はN70°W，で褶曲構造をしている。泥質岩を源岩とし，多くは葉理状に細かく泥質部と砂質部が互層している。

3 応　用　地　質

(1) 災　　害

本図葉内には深成岩類が広く分布し，かつ表層は深層風化しているので，過去の集中豪雨で山崩れがしばしば発生している。東山，沖ノ山，鳴滝山周辺の山地では充分な注意が必要である。また，南北方向の断層が顕著であり，局地的な山地崩壊を警戒する必要がある。

兵庫，岡山県境の峠部には緩斜面に砕屑物の厚い層が発達している。地辷り地形の可能性もあるがはっきりしない。

(2) 鉱　床

本図葉内には現在稼行されている鉱山はないが，三郡変成岩中のマンガン鉱山が用瀬町と智頭町に，珪石は智頭町八河谷の三郡変成岩中に採掘されていた。このほか，深成岩類との接触部に小規模な金属鉱山が試掘されたがいずれも旧坑中である。

(3) 石　材

図葉中の三郡変成岩のうち珪質片岩は採石され骨材として利用されている。三倉の緑色片岩は「三倉石」と称して鑑賞用に利用されている。

（鳥取大学　文部教官　赤木　三郎）

Ⅲ　土じょう図

1　山地および丘陵地域の土じょう

1－1　土じょうの概要

本調査地は，鳥取県の東南端に位置し，千代川本流と支流八東川の上流域で，東は兵庫県，南は岡山県に接し，これら県境は氷ノ山・後山・那岐山国定公園の一部に包含されている。

出現する土じょうは，かっ色森林土，黒ボク土，ポドゾルに大別され，地形，地質，気象条件などの影響により，各々特徴を持った土じょうを形成し分布している。かっ色森林土は，調査地内の大部分を占め，本県林業の中心地智頭林業，若桜林業が，この土じょうを基盤として成立し，黒ボク土は，調査地の東，兵庫県境や高海抜地の緩斜面から谷筋などに部分的に出現し，ポドゾルは東山，沖ノ山など標高1000m以上の山頂部や尾根筋に局所的に分布している。

出現する土じょうをとりまとめると3土じょう群，7土じょう統群，となり，次表のごとくである。

第 6 表　　山地および兵陵地域の土じょう一覧表

土じょう群	土じょう統群	記号
かっ色森林土	乾性かっ色森林土じょう	B－d
	かっ色森林土じょう	B
	湿性かっ色森林土じょう	B－W
黒ボク土	厚層黒ボク土じょう	AT
	黒ボク土じょう	A
	淡色黒ボク土じょう	AE
ポドゾル	乾性ポドゾル化土じょう	P－d

1－2　土じょう細説

・乾性かっ色森林土じょう　B－d

本調査地の大半の山腹斜面上部から尾根筋にかけ，また谷密度の高い丘陵地の尾根筋に幅狭く分布する。

A_0層がよく発達して厚く，A層は薄く腐植に乏しく，一部でM層もみられ，その理化学性は劣る。これらの地域のうち1000m前後の高海抜地には有用広葉樹が多く，一部には天然ブナ林もみられる。700m以下のところでは，低質広葉樹や天然アカマツ，また一部アカマツ人工造林地も存在するがその生育は劣る。（林野土じょうのB_A，B_B，B_C型に相当する。）

・かっ色森林土じょう　B

乾性かっ色森林土じょうの出現する地域の山腹斜面下部から谷筋にかけて広範に分布している。

一般にA層は厚く，腐植に富み，B層はかっ色を呈し，その層位は漸変し，膨軟な粒状～団粒状構造がよく発達した匍行～崩積土が多い。

地形によりヒノキ・スギの造林適地に大別され，その生育も良好である。

本県林業の中心，智頭林業や若桜林業があり，智頭町芦津地区内には89haの天然ス

ギ（オキノヤマスギ）を中心とした「沖ノ山学術参考保護林」が指定されている。（林野土じょうのBD－d，BD型に相当する。）

・湿性かっ色森林土じょう　B－W

かっ色森林土じょうの分布するかなり起伏の大きい山腹下部から谷筋にかけて，幌峡く局部的に出現する。

A層は非常に厚く腐植に富み，膨軟な団粒状構造が深くまで発達した崩積土である。林野土じょうの一等地で，その生産力は高く，スギの優良林分が多くみられる。（林野土じょうのBE，BF型に相当する。）

・厚層黒ボク土じょう　AT

火山灰を母材とし表層土が50cm以上で黒～黒かっ色を呈し，若桜町加地，吉川，智頭町駒帰，中原などの谷筋から山ろく緩斜面に局部的に出現する。

スギの造林地が多く，その生育も良好である。

・黒ボク土じょう　A

厚層黒ボク土じょう同様，火山灰を母材とし，黒～黒かっ色の表層土が50cm以下で，厚層黒ボク土じょうの分布する周辺や一部山頂平坦面および緩斜面などにみられる。

スギの造林地が多く，その生育は厚層黒ボク土じょうよりやや劣る。

・淡色黒ボク土じょう　AE

表層土が25cm以下で，その色調は黒ボク土じょうより淡い黒～黒かっ色を呈し，若桜町吉川や智頭町八河谷に局部的に分布する。

黒ボク土じょう同様，スギの造林地が多く，生育も良好である。

・乾性ポドゾル化土じょう　P－d

東南兵庫県境三室山や東山，沖ノ山など標高1000m以上の山頂部や尾根筋に幅狭く局部的に分布し，天然ブナ林が一部にみられる。

地理的，気象的条件により，落葉の分解が悪く，粗腐植のA_0層（H，F層）が多く堆積し，時には，灰白色の溶脱層（A_2層）が斑点状にあらわれたり，チョコレート色の集積層（B層）が認められたりし，酸性の強い土じょうである。（林野土じょうのPDI，PDII，PDIII型に相当する。）

（鳥取県林業試験場　平尾　勝男）

参 考 資 料

1．鳥取県林業試験場	1956～1969	民有林適地適木調査報告書	
2．鳥　取　県	1966	鳥取県地質図	
3．林野庁大阪営林局	1960	大阪営林局土壌調査報告書	第3報「山崎事業区」
4．　〃	1968	〃	第13報「鳥取事業区」
5．岡山県林業試験場	1969	岡山県適地適木調査報告書	第15号「英田，勝田北部地区」
6．兵　庫　県	1972	林野土壌調査報告	「大屋市場」
7．　〃	1974	〃	「坂根」
8．経済企画庁	1974	土地分類図1/20万	「岡山県」
9．　〃	1974	〃	「兵庫県」
10．　〃	1974	〃	「鳥取県」
11．鳥　取　県	1976	土地分類基本調査 1/5万	「若桜・村岡」
12．　〃	1978	〃	「智頭」

2　台地，低地地域の土じょう（農地土じょう）

2－1　土じょうの概要

本図葉は岡山県境沿いの八頭郡智頭町，若桜町を中心に，八頭郡船岡町，八東町の一部を包含する「坂根」，「大屋市場」図巾で北方は「若桜・村岡」西方は智頭図葉に接する。

耕地は千代川，八東川に沿って開けた谷底平野で極山間部のため水田は段田が多く，畑地は急俊な山裾に分布している。

水田土じょうはれき層土じょうが多く，浅耕土である。特に千代川上流の水田は30cm～60cm以下に砂れき層のある土じょうが（粗粒灰色低地土じょうⅡ）八東川上流の水田は30cm以内より砂れき層のある土じょうが（粗粒灰色低地土じょうⅠ）主体となっている。

本図葉内の耕地土じょうを土地分類基本調査作業規程準則にしたがいその断面形態，母材，堆積様式により，次の如く細分した。

第 7 表　　台地，低地土じょうの一覧表

土じょう群	土じょう統群	記　号
黒ボク土	黒ボク土じょう	A
灰色台地土	灰色台地土じょう　Ⅰ	Gu—Ⅰ
灰色低地土	灰色低地土じょう　Ⅰ	GL—Ⅰ
	〃　〃　Ⅱ	GL—Ⅱ
	粗粒灰色低地土じょう　Ⅰ	GL—C—Ⅰ
	〃　〃　Ⅱ	GL—C—Ⅱ
	〃　〃　Ⅲ	GL—C—Ⅲ

2—2　土じょう細説

(1)　黒ボク土

黒ボク土じょう　（A）

本図葉の八頭郡若桜町中原の比較的平坦な台地に少面積であるが分布し，腐植層30㎝内外で下層土は黄かっ色の粘土質の土じょうからなり，表層腐植質黒ボク土じょう（大川口統）で普通畑，なし畑として利用されている。

(2)　灰色台地土

本土じょうは断面の主要土層の土色，土性，れき，班紋等の状況を考慮し分類した。特に灰色低地土じょうと区別したのは，その地形が扇状地形で，明らかに河成沖積面と極端な標高差がみられたためである。

灰色台地土じょう　（Gu—1）

本土じょうはその断面の主要土層の土色が灰～灰かっ色で鉄の班紋が発達しマンガン結核のないじょう質の土じょうで，智頭図葉の灰色台地土じょうと一連のものである。

(3) 灰色低地土

本土じょうは断面の主要土層の土色，土性，れき層の出現位置，班紋，結核の有無を考慮して分類した，これに包含される土じょうは粗粒灰色低地土じょうⅠ，Ⅱが主体で，一部灰色低地土じょうⅠ，Ⅱ，粗粒灰色低地土じょうⅢが小面積であるが分布する。

灰色低地土じょう　Ⅰ（GL－1）

本土じょうはその断面の主要土層の土色が灰～灰かっ色（灰色－灰かっ色土じょう，じょう土型）鉄の班紋が比較的に浅い層より発達するじょう質の土じょうで有効土層は厚い，八頭郡船岡町下野にわずかに分布し，若桜図葉のものと一連の土じょうである。

灰色低地土じょう　Ⅱ（GL－Ⅱ）

本土じょうはその断面の主要土層の土色が灰色～灰かっ色で下層にマンガン結核をもつじょう質の土じょうで透水性はやや良好である。

千代川上流河岸で八頭郡智頭町尾見，中島一帯の水田に分布する。

粗粒灰色低地土じょう　Ⅰ（GL－C－Ⅰ）

本土じょうはその断面の主要土層の土色が灰色で表土下30cm以内より砂れき層，れき層が出現する土じょうで，粗粒質で排水は良好であるが浅耕土で鉄，マンガンの溶脱が甚だしい。

主として八頭郡若桜町の八東川上流の河岸段田に広く分布する。

粗粒灰色低地土じょう　Ⅱ（GL－C－Ⅱ）

本土じょうはその断面の主要土層の土色が灰～灰かっ色で，下層30～60cm以下が砂れき層～砂層の出現するもので，れき層土じょう砂土河床型，また，れき質土じょう砂土盤層型のものが該当する。

本図葉のものは表土下45cm以下は砂或はれき層が出現するもので，鉄班紋は表土直下の層に発達し排水は良好である。

八頭郡智頭町山郷地区の千代川上流河岸の段田水田に広く分布する。

粗粒灰色低地土じょう　Ⅲ（GL－C－Ⅲ）

本土じょうはその断面の主要土層の土色が灰～灰かっ色で下層が砂質じょう質でれきに富み，鋤床直下にマンガン結核の沈積したもので，れき土質じょう，じょう土マン

ガン型のものがこれに該当する。

八頭郡若桜町長砂一帯の春米川右岸の段田に分布し排水良好である。

本図葉は一般に山間地で河川傾斜度が大きく，耕地は段田が主体であり積雪地帯のため水稲単作で生産性は低い。

（鳥取県農業試験場　西尾　一雄）

参 考 資 料

(1) 鳥取県農業試験場（1967）　地力保全基本調査成績書（若桜）

(2) 〃（1969）　〃（智頭）

(3) 経済企画庁（1974）　土地分類1/20万（鳥取県）

(4) 鳥取県農業試験場（1975）　鳥取県土地生産性分級図および地力保全対策図

(5) 鳥 取 県（1976）　土地分類基本調査 1/5万「若桜・村岡」

(6) 〃（1978）　〃「智頭」

Ⅳ 水系，谷密度分布図

1. 水 系 図

本地域は千代川水系の源流部をなし，図葉内の水系はほぼ樹枝状の水系パターンが支配的である。水流は渓流河川の特性を示し，滝や瀬が数多くみられる。智頭町芦津渓谷上流の三滝は著名な滝である。この滝より上流部は前輪廻のなだらかな勾配の水系をなしている。また若桜町大段附近にはなだらかな斜面があり，この上の水系はゆるやかな勾配を示している。

2. 谷 密 度

図葉の中でもっとも卓越するのは水系が15～20の部分であり，次いで20以上や10～15のものが多い。そして谷密度が2～3の部分はすでにのべた大段付近の平坦面の部分と県境の平坦面の部分に限られる。

（鳥取大学　文部教官　豊島　吉則）

Ⅴ 傾 斜 区 分 図

傾斜区分図は5万分の1地形図中の20m等高線の間隔を測定し，斜面勾配を算定して表現した。斜面の区分などに当って2万5000分の1地形図の読図や空中写真の判読などをも参考にした。

本図葉はその大部分が山地で占められているため，15° 以上の斜面が広い面積を占め，緩斜面の占める面積はきわめてせまい。

緩斜面の分布は沖積平野面と氷ノ山山地の大段の部分にやや広く発達している。それに対して急斜面は千代川，北股川，八東川上流部の河谷沿いに分布している。

傾斜区分図の中に 100m等高線をトレースした標高区分図が記入されているので，傾斜の状況と海抜高度との関連がわかる。

（鳥取大学　文部教官　豊島　吉則）

Ⅵ 開 発 規 制 図

天然の資源を高度に利用するための土地利用計画は自然環境，遺跡文化財等の保護との調和のとれたものでなければならない。

1 国 定 公 園

本図葉内の県境部及び智頭町地内の沖ノ山，芦津溪地域に氷ノ山・後山・那岐山国定公園区域の一部がある。この公園区域内での行為制限は自然公園法（昭和32年6月1日法律第 161号）によって定められ一定の手続を経なければならない。

2 保 安 林

この地域は，千代川流域の上流地帯に位置し，水源の確保と流量調節のため水源かん養保安林を主体に指定されているが，局所的には災害の防止を目的とした土砂流出防備保安林，土砂崩壊防備保安林，なだれ防止保安林が指定されている。

保安林の法的規制は森林法(昭和26年6月26日法律第 249号)により規定されている。

3 鳥 獣 保 護 区

智頭町芦津渓地域及び若桜町氷ノ山周辺が鳥獣保護区に設定されている。この地区内では巣箱，給餌台，給水器等を設置し，鳥獣の保護繁殖が図られ，同時に鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律（大正7年4月4日法律第32号）によって鳥獣の捕獲が禁止されている。

4 砂 防 指 定 地

砂防設備を必要とする土地，又は治水上砂防のための一定の行為を禁止，制限しようとする土地は砂防指定地に指定されている。

これらの砂防指定地には，えん堤工，流路工などの砂防工事が実施されており，本図葉内には52渓流が指定されている。

砂防指定地内における行為の禁止，制限は砂防法（明治30年3月30日法律第29号）によって定められている。

5 急傾斜地崩壊危険区域

急傾斜地崩壊危険区域は急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律（昭和44年7月1日法律第57号）に基づき指定されるもので図葉内に1か所指定されており，急傾斜地崩壊防止工事の実施並びに行為制限措置などが講ぜられている。

6 地すべり防止区域

本図葉内の地すべり防止区域は若桜町に1か所指定されている。地すべり等防止法（昭和33年3月31日法律第30号）によって地域の保全と民生の安定のための防止策が講ぜられるとともに，地下水の誘致等の行為の制限がとられている。

7 国 有 林

本図葉内の国有林は千代川支流の北股川，横瀬川，赤波川及び八東川支流の糸白見川の水源地帯，八東川上流の兵庫県境付近に存在している。

これらの国有林を借り受け又は使用する場合には国有林野法（昭和26年6月23日法律第 246号）により営林署長又は営林局長の承認を要する。

8 史跡，天然記念物及び埋蔵文化財

本図葉内に所在する県及び町指定の史跡，天然記念物は3件で内訳は県指定天然記念物2件若桜町指定史跡1件である。

これらの文化財はそれぞれ文化財保護法（昭和25年5月30日法律第 214号）鳥取県文

化財保護条例（昭和34年12月25日鳥取県条例第50号）及び若桜町文化財保護条例（昭和48年7月31日若桜町条例第 654号）によって保護されている。

このほか，文化財保護法によって地域を定めず指定された特別天然記念物オオサンショウウオ，天然記念物イマワシ，ヤマネ等があり，現状変更とか保存に影響を及ぼす行為が制限されている。

また文化財保護法には埋蔵文化財についても保護上必要な規定が設けられており，この図葉内には今のところ4か所の遺跡が確認されている。

これらに関する法的規制等の概要は次のとおりである。

(1) 許可を必要とするもの

史跡，天然記念物に関する現状変更等の制限

国指定　文化庁長官（文化財保護法第80条）

県指定　県教育委員会（鳥取県文化財保護条例第34条）

町指定　若桜町教育委員会（若桜町文化財保護条例第32条）

(2) 届出を必要とするもの

埋蔵文化財の発掘，発見等

発掘調査の場合　文化財保護法第57条（地方公共団体を除く。）

土木工事等の場合　文化財保護法第57条の2（国の機関等を除く。）

遺跡を発見した場合　文化財保護法第57条の5（国の機関等を除く。）

遺物を発見した場合　遺失物法第1条（所轄警察署長あて）

(3) 通知を必要とするもの

国の機関，地方公共団体又は国若しくは地方公共団体の設立に係る法人で政令の定めるものの特例

土木工事等による発掘　文化財保護法第57条の3

遺跡の発見　文化財保護法第57条の6

なお，埋蔵文化財については，資料が不充分であるので開発計画の策定に当たってはできるだけ早く教育委員会と事前に協議し，現地調査を行うことが望ましい。

（鳥取県農林水産部農業指導課）

<資料提供機関>

衛生環境部自然保護課，農林水産部林務課，農林水産部造林課，土木部砂防利水課，

鳥取県教育委員会事務局文化課

Ⅶ 土地利用現況図

1 農　地

本図葉の関係市町村は八頭郡智頭町（旧山郷，山形村）と八頭郡若桜町（旧池田村）が大半を占め一部八頭郡船岡町，八東町である。極山間地で蛇行しつつ流れる千代川，八東川の流域に沿って形成された沖積地水田と急俊な山裾にかっ色森林土，黒ボク土に畑が分布する。

(1) 水　田

本図葉内の水田は標高1388mの東山をはさみ東に八東川，西に千代川が中国山地を分水界として北に流れ，図葉内河川長8～9kmの間に水田が標高 500mから 220mまで約標高差 280mで分布し棚田が多い。

したがって表土は砂じょう土～じょう土であるが下層に砂，砂れき層をともなうものが多く浅耕土で排水は良好である。

本地域は積雪地帯であるため水稲単作であるが，一部にいちご（八東町佐崎）おおれん（智頭町山郷地区）が栽培されている。

(2) 畑

本図葉内の地形は急俊なため畑の集団地はなく，比較的に傾斜の緩やかな所に樹園地が，集落の周辺に自家用そさい畑が点在する。

大半はかっ色森林土で一部台地に黒ボク土が存在する。かっ色森林土地帯畑は主として，くりが栽培され，黒ボク土地帯は，なし畑，普通畑である。

また智頭町に属する旧山郷，山形地域は，おおれんの栽培が盛んで八頭郡智頭町全栽培面積 250haうち水田転作7haの大半が本地区である。

特にその大半がかっ色森林土の杉林の下に栽培されている。

2 林　地

本図葉内の国有林は，千代川支流の北股川，横瀬川，赤波川及び八東川支流の糸白見川の水源地帯，八東川上流の兵庫県境付近に位置し，スギ，ヒノキの人工林と広葉樹の天然林が大部分である。

民有林は，スギ，ヒノキの人工林と広葉樹が大半を占め，混合林が点在している。

保安林は水源かん養保安林が全町村に広く指定され，土砂流出防備保安林，土砂崩壊

防備保安林及びなだれ防止保安林が部分的に指定されている。

3 都 市 ・ 村 落

本図葉内には都市はないが河川の流域に村落が発達している。

（鳥取県農林水産部林務課）

（鳥取県農業試験場）

あ と が き

1　本調査は，国土調査法（昭和26年6月1日法律第 180号）第5条第4項の規定により昭和54年6月25日国土調査の指定を受け，国土庁の都道府県土地分類基本調査費の補助金により，鳥取県が調査主体となって実施したものである。

2　本調査成果は国土調査法施行令第2条第1項第4号の2の規定による土地分類基本調査図及び土地分類基本調査簿である。

3　調査の実施，成果の作成関係機関及び関係担当者は下記のとおりである。

指　導	国土庁土地局		
総　括	鳥取県農林水産部農業指導課	課　長	尾崎　八郎
	〃	課長補佐	砂川　昇
企画調整編集	〃	〃	森　源蔵
	〃	主　任	池内　孝明
地形調査	鳥取地学調査会鳥取大学教育学部	文部教官	豊島　吉則
表層地質調査	〃	〃	赤木　三郎
土じょう調査	鳥取県農業試験場	土じょう保全科長	西尾　一雄
	鳥取県林業試験場	研究員	平尾　勝男
土地利用現況調査	鳥取県農林水産部林務課	課長補佐	角脇　智
	鳥取県農業試験場	土じょう保全科長	西尾　一雄
開発規制調査	鳥取県農林水産部農業指導課	主　任	池内　孝明

4　協力機関は次のとおりである。

鳥取県企画部統計課，鳥取県衛生環境部自然保護課，鳥取県農林水産部林務課，
鳥取県農林水産部造林課，鳥取県土木部砂防利水課，
鳥取県教育委員会事務局文化課，

1980年3月　　印刷　発行

鳥取県県南地域

土地分類基本調査

坂根・大屋市場

編集発行　鳥取県農林水産部農業指導課

鳥取市東町一丁目 220

印　　刷　緑川地図印刷株式会社

東京都墨田区吾妻橋二丁目18番3号